

能美校下のまいぶんマニュアル

1. 能美校下ってこんなところ！

地形／能美校下の大半は梯川が流れる平野にあります。

ここには弥生時代以降、肥よくな水田地帯が広がり、人々が生活したむらや有力者の住まいのあとなどがたくさん見つっています。能美校下のあたりは、平安時代に「能美郡野身郷」と呼ばれていました。

ぜひ授業で紹介してほしいポイント！



年表に登場する遺跡／千代・能美遺跡（能美町）

おもな時代は弥生時代～古墳時代（遺跡の全体では室町時代までのものが見つっています）。

教科書の小単元は「縄文のむらから古墳のくにへ」。

ポイント①＝古墳時代初め頃の梯川流域の平野をおさめた有力な豪族（首長）の居館。

ポイント②＝発見された場所は、現在の国道8号線バイパス千代・能美インター付近です。工事前に発掘調査されました。

ポイント③＝居館を取り囲む溝からは、大量の木の道具も見つっています。くわなどの木製の農具のほか、有力者だけが所有する珍しいものもたくさんあります。

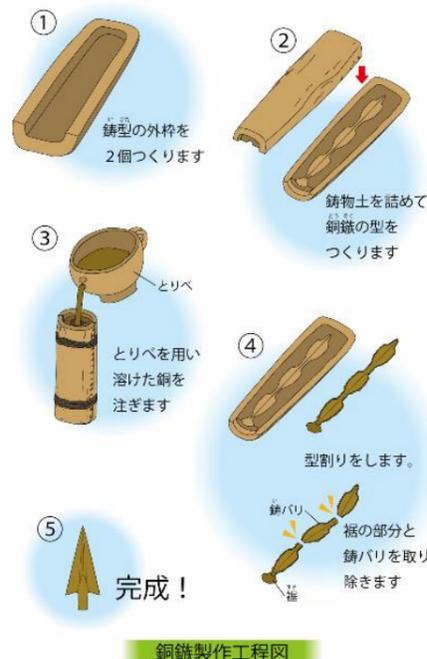
年表未登場の重要な遺跡／一針B遺跡（一針町）

おもな時代は弥生時代～古墳時代。

ポイント①＝米づくりの時代に、当時最先端だった青銅器や鉄器の加工を行っていた工房跡。

ポイント②＝芦城校下の八日市地方遺跡でいち早く鉄器の利用が始まり、その後ここで金属の加工が始まりました。

ポイント③＝ここで見つかった工房跡と同じ時代のむらの様子が、石川県埋蔵文化財センターが発掘した梯川堤防沿いの一針C遺跡で、たくさん明らかになりました。



一針B遺跡でわかった銅鉄のつくり方



能美校下の遺跡



地形の説明



千代・能美遺跡紹介

2. もっと知りたい能美校下のれきしじまん

平野をおさめた豪族の居館

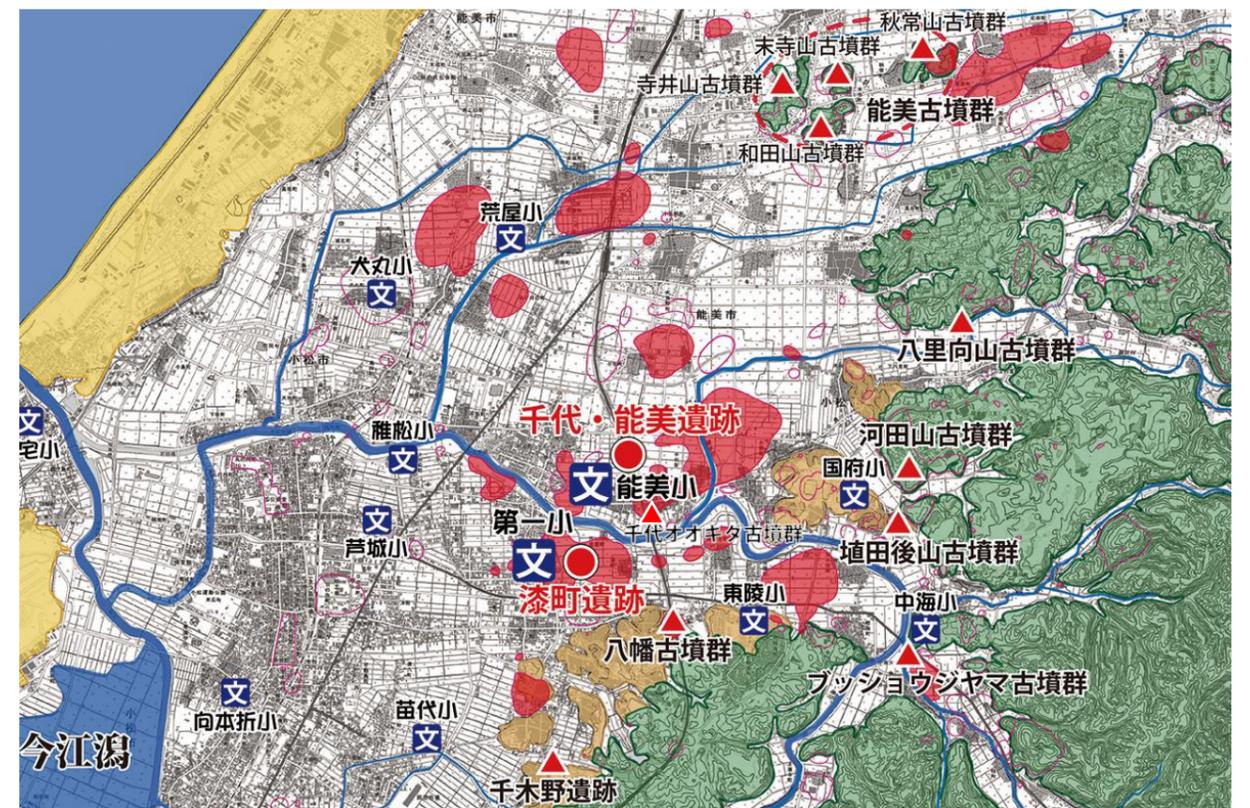
千代・能美遺跡

●遺跡のあるまち／能美町

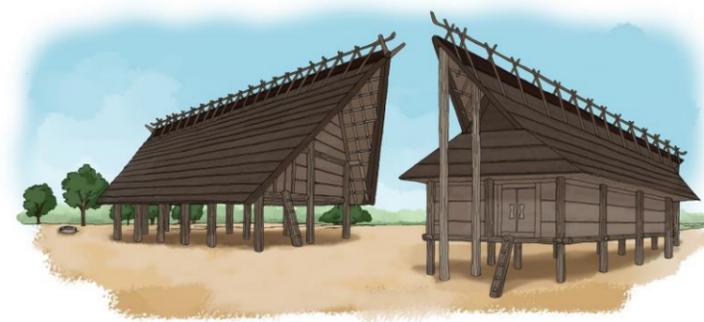
●キーワード／むらからくにへ、豪族、居館、大型の建物跡、千代オオキダ古墳群（遺跡）、古墳

むらからくにへとまとまる古墳時代になると、各地で勢力をのぼした豪族たちが活躍します。千代・能美遺跡では、豪族の居館と考えられる、溝で囲まれた中をさらに柵や塀などでさらに区画した大型の建物跡が見つかりました。

溝からはたくさんの木の道具が出土し、中には、槍の鞘や儀仗など有力者の証ともいえる特殊品が含まれます。居館にいたのは、千代町の千代オオキダ古墳群（遺跡）や、周辺の丘陵にある能美市末寺山古墳群や国府校下の河田山古墳群など、同じ時期の古墳を築くのに関わった、梯川流域の水田地帯をおさめた人物と推測されます。



● 集落遺跡 ▲ 古墳群



豪族の居館と考えられる建物復元イメージ



槍の鞘